



～礼儀と節度を考える～

平成武師道

〈人間活動学〉

『忠孝』

人は人として生きていく中で
決められた規則が生まれる

その規則の中で自由を創り出さなければならぬ
自由という中の自由だけであつたら
それは「わがまま」にしか過ぎない
人と人との間の規則を守る為には

己の心に厳しく
真剣に捉えなければならぬ
人に仕える時

己の心の中
すなわち中心に義を見つめ
行動に出なければならぬ

それを「忠」と呼ぶ

厳しさが優しさに変わる時

人から受けた愛情に氣付くだろう
人はひとりで育つた訳ではない
親や師から頂いた時間
すなわち恩

育ててくれた恩を受け

それをお返しする時は必ず来るだろう

子は必ず独り立ちをする

親の背を見て育ち

親の背に乗り育つてきた

恩を返す時

己の背に親を背負って歩まなければならぬ
子が親を背負うと書いて

それを「孝」と呼ぶ

人は成長し

いつかは師になり親となる

その時に師と弟子

親と子をつなげる一番大切な言葉

それを「忠孝」と呼ぶ



武師道